デジタル版
2025年
02月20日号
Vol. 146

成岡マネジメントオフィス事務所通信

NMO OfficeLetter

京都企業インド進出活発に！

京都の大手製造業のインド進出が激しくなっている。島津製作所、堀場製作所、ニデックなどのそうそうたる日本を代表する大手製造業の京都企業が、相次いでインド進出を表明している。現在、人口では中国を抜いて世界一のインド。高い成長率を誇り、まだまだ未開拓の市場は大きい。トランプ大統領の登場で、さらに苦境に立つ中国から生産拠点を移す動きも加速している。インドに進出した日系企業はこの20年間で6倍に増えた。古くはスズキ自動車がインドに苦労して進出した有名な逸話があるが、これからもインド市場は草刈り場になりそうだ。

＜解説＞インド市場の有望なことは誰もが認める。人口増加、経済成長率、未開拓の市場の広さなど、どれをとっても今後有望と思わせる環境がある。加えて、アメリカと中国との貿易摩擦が拡大し、中国国内経済の停滞と相まってインド市場の可能性が一層強く印象付けられる。2024年のJETROのアンケートでは、インドの日系企業の7割が黒字で、8割の企業が事業拡大を計画している。京都の大手製造業でも今後インドへの進出、投資を加速する動きが広まっている。島津製作所は計測機器を製造する工場を始めてインド南部に開設し2027年度に稼働さす。同社が狙うのは後発薬の製造拠点がインドに集まっているからだ。

堀場製作所は水素燃料自動車のエンジン開発に投資を増やす。最新鋭の水素ガス測定装置を設け、水素エンジン車の排ガス燃費などが測定できる体制をとる。ニデックは車載モーターの生産増強を図る。インド西部で100億円を投じ、新工場を建設する。2027年度から電装品用モーターの量産を始める。インドでは新車の販売台数が520万台と、日本を抜いて世界第3位に浮上した。中国、米国に次ぐ大市場だ。インド政府も10年前から国内製造業の育成施策を開始し、国内生産する企業は

外資でも優遇し、現地生産しないと入札にも参加できないという縛りを設ける。大手製造業以外でも、未開拓の市場が多いので、生活消耗品や住宅関連企業の進出も以前から加速している。エアコン、トイレ、道路などのインフラなどは、まだまだこれから大きく伸びる可能性がある。何といっても世界一の人口を誇り、英語が通じ、階級制度が残るとはいえ国民の知識レベルは非常に高い。数字に強く、多くのITエンジニアを輩出している国だ。今後、さらに日本企業の進出が加速するだろう。早い者勝ちだ。

BUSINESS MANAGEMENT&COORDINATION
株式会社成岡マネジメントオフィス
〒616-8104 京都市右京区太秦下刑部町170
プレサンスロジェ太秦天神川駅前613
TEL:075-366-6611 FAX:075-366-6100 info@nmo.ne.jp

Copyright (C) Naruoka Management Office. All rights reserved.